

安曇野市まちづくり推進会議第1回ワーキンググループ
(区の意義や重要性の理解促進部会)

1	会議名	安曇野市まちづくり推進会議第1回ワーキンググループ
2	日時	令和元年10月17日 午後1時30分から午後4時まで
3	会場	安曇野市役所 本庁舎 4階 大会議室西
4	出席者	田村会長、熊井副会長、大澤副会長、瀧澤委員、藤松委員、玉井委員、 小口委員、猿田委員、妹尾委員、堀井委員、望月委員、宮崎委員、野中委員、 土屋委員(地域おこし協力隊)
5	担当課出席者	宮澤市民生活部長、地域づくり課 山田課長、青柳係長、矢下主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和元年10月30日

協 議 事 項 等	
1	会議の概要 (1) 開会 (2) あいさつ (3) 自己紹介 (4) 「安曇野市まちづくり推進会議」及び「ワーキンググループ」について (5) ワーキンググループ ① 審議計画について ② 課題の精査 ③ その他 (6) 閉会
2	会議事項概要 (1) 開会(進行:山田課長) (2) あいさつ(田村会長) (3) 自己紹介 (4) 「安曇野市まちづくり推進会議」及び「ワーキンググループ」について ※事務局より資料に基づき説明 (5) ワーキンググループ(進行:部長) ① 審議計画について ② 課題の精査 ※事務局より資料に基づき説明 【事務局】 ・それぞれの立場から、地域コミュニティで日頃から感じていること、課題について、ご意見をいただきたい。

【委員】

- ・区長会としていろいろやってきたが、作成してきたマニュアルを読んでいる区長が何人いるのか。区の意義というものを区長が上手く説明できないことがあり、これをいかに変えていくかが区長会の課題となっている。各区長が区民や転入者などに対し区の意義の理解を促すことで、区の加入率、区の維持につながっていくと考える。
- ・少子高齢化の中、区役員の担い手が減っている。役員ができないから脱退したいという話がある。役員の仕事を軽減させるようなコミュニティが必要。集まってやることで負担が減る。区民にマニュアルを説明して、区民と共有していくことが必要であるが、区長の知識がどのくらいあるのか。

【委員】

- ・文化祭の時期であるが、各地区の芸術文化団体から辞めたいという意見を聞く。継ぐ方が育っていない中、地域をどうつなげていくのか。公民館行事の運動会、文化産業展、コンサート等、人が集まらない状況が続いている。地域をつなぐには区というものへの愛着が必要。仮に各区への愛着が強ければ、参加する方が増えると考えている。自分の地区を知ることが大事にしていかなければならない。
- ・最近、ミニコミ誌が流行っている。ネットではなくて、つながるものがあるはずだと考える。公民館報をつくっているが、回覧板、広報は見る方、見ない方がいる。手渡しが一番いいと思う。
- ・各団体が行事を単体でやるのは大変。連携、融合していくことが大事。
- ・公民館行事としても、区の行事としても、子どもを巻き込む努力が必要。子どもの力は偉大。

【委員】

- ・成相でNPO法人をはじめて10年になる。安曇野の小学校、中学校の出身ではないが、愛着を持って仕事場である安曇野に通っている。この10年で区の役員が代わる中、事業所のメンバーはそれほど代わっていない。防災訓練等においても、事業体の場所がそこにあるのであれば、やり続けたいといけない。役員が代わっても防災訓練等に事業所が出続けている。また2ヵ月に1回、地域のコミュニティセンターをお借りして、介護の関係ではなく、地域貢献としてエンディングノート作成の講座をやり続けている。デイサービスがそこにあるというだけの認識から、平時より距離感をつめて、事業所からそばにいることを伝えていくことが大事だと思う。

【委員】

- ・子育て支援をはじめたのは、合併する前、児童館がなく子どもたちが行く場所がないときにサロンを始めたのがきっかけ。その後はNPO法人を設立。私有地に拠点をつくってやってきた。雪かきで困ったことがあったとき、歴代区長ではじめている集会所での会合に相談にいったところ、自分たちが行くと手を挙げてくれた。そこで身近なところからやっていかないといけないと痛切に感じた。それが広がって、地域で子育てをやらうとなってくれたら良いと思う。

【委員】

- ・女性消防隊は合併と同時に発足したが、正直はじめは飾り物となっていた。それではいけないと思い、隊員で話し合い、昼間の広報をはじめた。今では全地域に女性消防隊員がいるようになった。自分の地域の行事だけでなく、他地域にも入っていくようにしている。32人のうち14人が応急手当指導員の資格を取り、地域に入ろうと消防署と一緒に活動するようになった。自助、共助で自分の地域を守ろうという意識づけをしていこうと、アドバイザーの資格を持ちながら、各地域に入っている。
- ・男性だけの世界であったが、理解があって女性消防隊をやるようになった。男の人だけでは、これからの防災は回らないと思う。女性が勇気をもって、組織の中に入る事が重要。女性と男性が協力しあう集団になればいいと思う。

【委員】

- ・民生児童委員をやっているのは、中高年のひきこもり。地域や隣組の付き合いを全くしない状況がある。行事に参加してもらうことに苦勞している。
- ・区の加入率ではなく、区の意義と重要性の理解に重点を置くことは大事であるが、数値で変化を比較することは大事であるので、統計はしっかりと取り、各区に案内してもらい、今の活動が良いかどうか反省する位置づけは必要であると思った。
- ・民生児童委員は3年の任期がある。区長の任期は1年～2年。1年ではなく、複数年に変えていくことも課題になる。役員が代わる時の引き継ぎに不備があると思う。どうやって継続性を持たせていくかが課題。
- ・各区で核となる人が必要であると思う。過去の経験者でもいいと思う。部制度の体制づくりの中で、経験のある方を引き込んで核となってもらおう。そういう人に不備を補ってもらうことを考えることが重要であると思う。
- ・隣組が大切であると思う。民生児童委員をやっているが、問題が起きた際に発見するのは隣組が一番速い。隣組に区や行政が協力していくことが大事であると思う。民生児童委員が頼りにするのは、隣組長。隣組から情報を聞いて行っている。

【委員】

- ・私は区長を4年間やったが区長の仕事は楽しいと思った。手法は人によってたくさんあると思うが、人は褒められたら嬉しいし、頼りにされたら頑張ると思う。地域づくりはそれぞれ辛いこともあるが、みんな楽しめる区にしていければと思う。
- ・伝統として真々部区で続いている真々部新聞がある。2ヵ月に1回発行しており、弱者にスポットをあてて皆にPRしているもので、全戸配布している。これを作成するのは大変であるが、これは力になっていると思う。それは新規の住宅が100数軒建っているが、区に加入してもらっている。総代も含め、社協、公民館の熱意がその人を動かす。30%の人は区を嫌がるが、その中で、区がやっていることを理解してもらうことが重要であると思う。高齢化の中、力を合わせて皆で楽しんでまちづくりをしていかなければならない。

【委員】

- ・区の重要性を考えたとき、平常時は感じることは少ないと思う。災害時等の普通と違う時、近隣の住民の支え合いが真価を発揮すると思う。そのために平常時に関係をつくり、隣組という単位での人間関係が構築されていくことが大切である。社協から福祉員制度をお願いしているが、隣組長には近所の様子とか人間関係に目を配り、寄り添う気持ちをもった活動をお願いしている。
- ・人を集めることは子どもを集めることだと思う。区だからできることは人が集まる場をつくることだと思う。各々が縦割りの中でやるのは難しくなっており、他組織とひとつになることが大事。
- ・災害時の支え合いマップは災害時の行動を落とすものであるが、災害時だけでなく、コミュニティマップとしても地域の人材を落とし込んでいくことで、地域にこんな人材がいることを皆で知り、人の活躍の場にもつながっていく。支え合いマップを多角的に捉えて、地域発見の手段としてつかうことも良いと思う。

【委員】

- ・子どもは入口であると思う。児童センターでは毎日いろいろな素晴らしい経験させてもらっている。
- ・公民館活動で出前講座をやるが、講師の方から言われるのは、「とても地区の人たちが仲よし」と言われる。その理由を掘り下げてみたら、お祭りであると思った。転入した時はお祭りがなかったが、そこで昔のお祭りを復活するよう動き、それがどんどん定着していった。その時の子どもが親となり子どもをつれてきている。公民館の分館の役員がお祭りクラブの代表者で、

村中を巻き込んで実施している。転入者には餅まきをさせてウェルカムの体制で迎えている。私自身、育成会で任期4年目となるが、こんなすばらしい役はない。多くの方に同じ経験してほしい。

【委員】

- 宅建協会としての活動として、「区に加入しましょう」とお勧めしている。安曇野の宅建協会に入っている業者のほとんどが加入を勧めている。顧客への紹介の中では、区に加入すると書いてくれている。中には煩わしいと言う方もいる。その理由として区に加入するのは怖いという話があるが、今はそのようなことはないと説明させてもらっている。
- 安曇野市に移住される方は40代ぐらいの子育て世代、現役をリタイアされた世代に客層が分かれる。子どもがいる方のほとんどは加入しているが、リタイアされた方は、人に左右されずに過ごしたいという考えがある。紹介まではするが、やはり隣組といった最少単位で区の加入に理解してもらうよう説明することが必要。迎える側も勉強して、区がどのような活動をしているということを言えるようになる必要がある。
- 時代にあった公民館活動をしていく必要がある。旧体制の活動で出席者は役員となっている状態であるので、見直しを図ることが必要。

【委員】

- 30年前は区の役員は元気な人がやっていて、次の人を指名してやっていたので、熱心に活動しており、内容も楽しくやっていた。だんだん持ち回り制度となり、戸惑いながらやっているのが現状。昔と違って、早く済まそう。簡素化しようというのが目立って楽しもうとしていない。共働きが多く忙しい。また、行事はなかなか止めることができない。
- NPOで地区をみて歩く。文化や歴史を調べて、話して歩くことをやっているが、そのような地区を知るような行事をやるのが、地区の連携につながると思う。コミュニケーションを深めることができればと思う。
- 十数年移住に関わってきたが、安曇野を出ていく人はあまりいない。安曇野市はやさしい市である。分譲した際に、この土地を買う人は区に入るという条件をつけたが、それが嫌で買わなかった人はいない。

【委員】

- 住んで3年目のときに、持ち回りで地区長が回ってきた。自分としてはやってみてよかった。大きい区だと区の全体像は見えない。地区長をやっても区長、役員をよく知らないが、地区長をやったおかげで地域を知ることができ、子どもがお祭りの際に舞を踊ることができた。景観が魅力で安曇野に移住したが、人とのつながりが大事だと感じた。安曇野に来る方もそういうのを求めてくる人もいて、理解が進んできている。一方で村社会が残っているので、前例踏襲という形がある。若い人が役員をやる際、決めたことを実現できたら満足感はあるが、上に言われたことをやらなきゃいけないとなると負担感はある。
- NPOは誰も専任者がいるわけではなく、お金を払って、労力をつかって皆でやっているが、それでもできるのは共感しかないと。仲間と一緒に自己実現を感じられるからだと思う。それがNPOとして大事であるが、区も同じであると思う。区の組織に属するのは結果であって、身近な人たちと楽しいことをすれば満足感がうまれる。そういったことを提供できればと思う。組織をつくることから始めるのではなく、若者やお母さん方等何かをやりたい人たちができる自由な雰囲気が必要。地区ごとで解決するのが難しくなっているので、NPOは地区割りではなく課題割となっているので、上手くつかってもらいたい。

【委員】

- 区に入れてもらったのは7年くらい前。新しい常会をつくって参加するうちに社協の役員になって、子ども祭りをやって魚掴みを復活させたり、餅つきをやったり、秋祭りでは、お船を曳くようにしたり、子どもやお母さん、年配の方々に頼んでいろいろイベントをやってきた。そ

の一方で促進への取り組みは、年に1回の新しくきた方への説明会があるが、ここ何年も開催していない状態で、足踏み状態。実際、20年以上区へ入れなかった人が入るのはハードルが高い状態であるが山麓に近いところなので、皆で協力しあう気持ちを持ってもらいたいと思っている。真々部区のように新聞を配布することはやってみたいと思うが、山の別荘地は、私の常会となっていて、50、60戸もあり、配送するのに費用がかかる。加入者への説明は広報、加入促進部はないので、区長だけでは難しく常会長が担っているが、説明不足で加入してもらうのは難しい。

その中で、新聞を印刷したい際に市に協力をお願いしたい

【委員】

- ・昨年引っ越してきた時は、区長から連絡があり、常会長と隣組長が挨拶に来た。その時の印象が大きい。挨拶まではとても緊張したことを覚えている。隣組長が良い方で、都会にはない温かさを感じて嬉しく思った。自分も小学校の時、公民館で映画をみていた記憶があり、区に入ることはなんとなく分かる。親が楽しくやっていると子どもも区に対して楽しいイメージで育っていくと感じた。
- ・先日、大型の台風がきたが、ご近所を知らないと怖いと感じた。周りにシングルで子育てをしている方を知っているが、区には加入していないので気にかけている。
- ・区の加入について1年間関わってきたが、隣近所で仲よくできていれば、区のイメージが必然的に上がると感じる。また、祭りでお船を曳くといったことは都会ではないので、移住してくる人でやりたいと思っている人は多いと思うので、ぜひ声をかければと思う。

③ その他

※次回の会議の案内

第2回ワーキンググループ 11月7日(木) 午後1時30分～

閉会(山田課長)

